

「平成19年度グローバルCOEプログラム委員会（第1回）」議事概要

1. 日 時：平成18年10月25日（水）12：00～14：00
2. 場 所：霞が関東京會館シルバースタールーム
3. 出席者：（委 員）相澤委員、安西委員、石井委員、小野委員、金澤委員、金出委員、木村（茂）委員、木村（孟）委員、郷委員、小宮山委員、白井委員、鈴木（厚）委員、鈴木（基）委員、田中（英）委員、玉尾委員、田村委員、戸張委員、鳥居委員、中島委員、野依委員、福山委員
（文部科学省）清水局長、村田審議官、中岡大学振興課長、伊藤大学改革推進室長
（事 務 局）伊賀理事、木曾理事、井上監事、中原監事、宮寫審議役、大木研究事業部長、鈴木研究事業課長、小野研究事業課次長

4. 議事概要

- ・議事に先立ち、審査・評価の実施主体である独立行政法人日本学術振興会の小野理事長より挨拶があった。
- ・事業の実施主体である文部科学省の清水高等教育局長より挨拶があった。
- ・平成19年度グローバルCOEプログラム委員会委員名簿〔資料1〕により委員が紹介された。

(1) 委員長の選出等について

- ・互選により、野依委員が委員長が選出された。
- ・野依委員長より、副委員長には、安西委員、郷委員が指名された。
- ・野依委員長から挨拶があり、その趣旨を汲んで審議・運営されるよう要請があった。

(2) 審議内容等の取扱いについて

- ・事務局より委員会の審議内容等の取扱いについて（案）〔資料2〕に基づき説明があり、審査（人選を含む）に関する調査審議を除き、会議、会議資料について原則公開とする旨の説明があり、了承された。

(3) 委員会の運営等について

- ・世界最高水準の卓越した教育研究拠点形成と大学院教育の抜本的強化〔資料3〕について、伊藤大学教育改革推進室長より説明があり、質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

（主な意見）

○「若手研究者や博士課程の学生が独立して研究に専念できる環境の整備や強化」の記載については、若手研究者と博士課程の学生を併記すると誤解を生じるのではないか。

○助教制度をまだつくったばかりであるから、各大学、分野によって大きく状況が異なっていることから、特出すべきではないのではないか。

- ・グローバルCOEプログラム委員会規程〔資料4-1〕、グローバルCOEプログラム委員会組織イメージ〔資料4-2〕、自己の関係する大学の事案に関する取扱いについて（案）〔資料4-3〕について、事務局より報告及び説明があり、了承された。

- ・平成19年度グローバルCOEプログラム審査スケジュール（案）〔資料5〕について、事務局より説明があり、質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

（主な意見）

○日本学術振興会はNSFに類似する機関と考えるが、ERCの実施した審査に比較すると審査機関が短すぎ、プロセスにおいても十分に審査員との対話の場を設けるなどの大幅な工夫が必要で、審査のプロセスを通じて、プロポーザルがより良いものとなるような工夫が必要ではないか。

- ・グローバルCOEプログラム委員会専門委員の選考について（案）〔資料6-1〕、平成19年度

グローバルCOEプログラム委員会分野別審査・評価部会の構成について（案）[資料6-2]について、事務局より説明があり、質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。なお、資料6-2の詳細については、今後ワーキング・グループによりさらに検討することとなった。

（主な意見）

- 分野の例示について、主要な学問分野はきちんと例示として挙げるべきではないか。
- 科研費の分科細目に沿うのではなく、学問の進展状況を見据えた新たな大学院教育の実施を積極的に促すものとするべきではないか。

（4）公募・審査の在り方について

- ・グローバルCOEプログラム公募・審査について[資料7]について、伊藤大学改革推進室長より説明があり、質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

（主な意見）

- 公募要領にはっきりとプログラムの理念・目的、何のために、何をすべきかなどを明確に記載すべきではないか。
- 申請書には具体的に達成目標が明示されるべき。
- 研究教育拠点の形成を目的とする現行COEプログラムと教育研究拠点の形成を目的とするグローバルCOEとの相違を明示すべきである。現行プログラムにおける採択プロジェクトの追認では決してなく、真に国際水準を満たす大学院教育の実現を目指すべき。
- 外国人研究者のレビューについては、日本人のみによる審査、外国人による審査も取り入れるなど、分野の特性等によって考慮すべきで、その際には申請者の負担も考慮しなければならないのではないか。
- 分野の例示は、新たな学問分野にもきちんと対応させたものにすべき。
- 施設設備など拠点に大学としてどのようなサポートを行うのか、意志を明確にさせるべき。
- 教育プログラムであるという観点からは、科研費の分科・細目を例示として挙げて整理するのは馴染まないのではないか。むしろ、それらの連携、融合を目指すべき。
- 第1次（構想）審査、第2次審査に分けて、それぞれ申請書の提出を求める方法も、審査員、申請者の双方の負担軽減の面からも考慮すべきではないか。
- 審査は分野ごとに分けて行う必要があるが、公募については、分野毎に分けて実施する必要はないのではないか。また、分野別のバランスは採択時にとればよいのではないか。
- 教育の質を重視すべき。
- 教育の評価基準をより明確にすべき。しかし、外形的・数値的指標だけでは不十分。
- 教育の抜本的改善を促す方策等を明確にすることが必要。
- ・本日の審議・検討状況、各委員からの意見を踏まえ、公募・審査の具体的な検討は、今後ワーキング・グループを設置して、詳細を検討の上、案を作成し、次回の委員会において審議し、決定することとされた。

（5）その他

- ・次回の委員会を12月20日（水）16時～18時に開催することとした。